

第10回国際会議等の北海道開催の推進に係る各省庁連絡会議 議事概要

1. 日時：平成28年9月1日（木）15：00～16：05
2. 場所：中央合同庁舎3号館8階国際会議室
3. 出席：〔省庁〕内閣府、警察庁、金融庁、消費者庁、総務省、公害等調整委員会、法務省、外務省、財務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、環境省、防衛省、人事院、会計検査院
〔北海道〕窪田北海道総合政策部長、工藤北海道総合政策部国際課長
〔札幌市〕庄中札幌市観光・MICE推進課長
〔国土交通省北海道局〕田村局長、桜田大臣官房審議官、水島参事官、佐藤企画調整官、山本開発専門官
〔国土交通省観光庁〕山内課長補佐
〔(独)国際観光振興機構〕影山コンベンション誘致部担当部長

4. 議事次第

(1) 開会

(2) 議事

- 1) 「国際会議等の北海道開催の推進に係る基本方針」の一部改正について
- 2) 向こう5年間の国際会議等の開催計画等について
- 3) MICEの誘致・開催の取組について（観光庁）
- 4) 国際会議等各種会議の北海道開催推進に係る取組について
（(独)国際観光振興機構）
- 5) 北海道における国際会議等誘致の取組と現況について（北海道）
- 6) 札幌市における国際会議等誘致の取組と現況について（札幌市）
- 7) その他

(3) 閉会

5. 議事及び主な発言内容等

- 1) 「国際会議等の北海道開催の推進に係る基本方針」の一部改正について
＜資料2-1、2-2について事務局より説明。＞
 - ・平成28年3月の「北海道総合開発計画」の閣議決定、「明日の日本を支える観光ビジョン」の決定、北海道による「北海道総合計画」の策定などを踏まえ、改正案を提案する。
＜改正について異議無く了承。平成28年9月1日付けで改正。＞
- 2) 向こう5年間の国際会議等の開催計画等について
＜資料3-1、3-2について事務局より説明。＞
 - ・平成27年度の国の機関等による国際会議等の北海道開催実績は10件であった。
 - ・平成28年度以降、向こう5年間の開催計画について、平成28年度は1件開

催済みで、平成29年度と30年度に各1件の開催が予定されている。

- ・日本国内における開催地が未定の会議が21件あり、これらについて、今後、北海道開催を積極的に検討していただきたい。

3) MICEの誘致・開催の取組について（観光庁）

<資料4について観光庁より説明。>

- ・MICEには、参加者等の消費支出に伴う経済効果、ビジネス機会やイノベーションの創出、都市の競争力・ブランド力向上といった3つの意義があり、国として誘致を進めている。
- ・MICEに関する支出額として、一般観光が13万5千円/人に対し、国際会議は30万7千円/人となり、開催地への経済波及効果が高い。
- ・世界の国際会議開催件数は、直近10年で36%増加したが、日本は28%増にとどまっている。都市別では、アジア・大洋州で東京は8位となっている。
- ・「明日の日本を支える観光ビジョン」において、MICEの誘致促進に向け、政府レベルで支援する体制を構築するため、関係府省連絡会議を年内に新設するとともに、将来的に官民連携の横断組織を構築しオールジャパン体制での支援を実施することとしている。
- ・観光庁では、グローバルMICE都市の育成、ユニークベニユーの活用促進などの地域のMICE誘致力強化に取り組んでおり、今後は関係府省と連携もしながら、政府横断的に取り組んでいきたい。
- ・近年、MICE誘致の新たな取組も見られ、札幌市では航空会社のAIRDOと連携協定を締結し、国内航空会社として初となる「MICE割引運賃」を導入している。また、北海道は自然が豊かであり、スキーやゴルフなどの自然を活用したベニユー開発も考えられる。

4) 国際会議等各種会議の北海道開催推進に係る取組について

((独) 国際観光振興機構)

<資料5について(独) 国際観光振興機構より説明。>

- ・MICE誘致政策として、昨年、「Meetings&Events」という新しいMICEブランドを構築した。今後MICE関係者が連携して新たなブランドを活用したプロモーションを強化していく予定。
- ・学会関係者等をMICE誘致アンバサダーに認定し誘致活動を支援する取組や、海外MICE見本市への出展、アジアを中心としたMICEセミナー・商談会の開催などにも取り組んでいる。
- ・北海道へのMICE誘致例としては、札幌コンベンションビューロー、JNTO、関係団体、関係企業等が一体となって誘致活動を展開した結果、約60か国から2,000名が参加する大規模な国際会議である世界牛病学会が2018年8月にアジアで初めて札幌で開催されることとなった。
- ・また、海外旅行会社のMICE担当者を対象に札幌、ニセコなどへのファミトリップの実施や海外メディアへ札幌のチームビルディングのメニューを紹介

するなどの取組を実施している。

5) 北海道における国際会議等誘致の取組と現況について（北海道）

＜資料6に基づき北海道から説明。＞

- ・北海道では、北海道洞爺湖サミット開催を契機に国際会議等誘致の取組を強化している。また、今年3月に新たに北海道総合計画を策定し、その中でも海外に向けた取組としてMICE誘致を推進することとしている。
- ・平成27年度の訪日外国人来道者数は208万人となり初めて200万人を超えた。北海道の食、自然などの強みが北海道ブランドとして海外に認識された成果と考えられる
- ・新千歳空港の北京・ソウルの運航便数は地方空港の中でもトップクラスであり、日中韓の会合等には利便性が高いと考えている。
- ・今年3月に北海道新幹線が開業し、東京－新函館北斗間が1日10往復、最短4時間2分で結ばれており、交通アクセスの複線化が図られている。
- ・北海道には、昨年8月にオープンした函館アリーナなど様々なコンベンション施設があるとともに、モエレ沼公園ガラスのピラミッド、昨年4月に開館した北海道博物館、世界自然遺産の知床などのユニークベニューやエクスカージョンに活用可能な様々な魅力があることから、これらを活用した国際会議開催を御検討いただきたい。

6) 札幌市における国際会議等誘致の取組と現況について（札幌市）

＜資料7に基づき北海道・札幌市から説明。＞

- ・札幌市は市内のホテルのほとんどが市中心部にコンパクトに集積し利便性が高く、札幌コンベンションセンター、北海道大学、ホテルなど会議規模に応じた会議施設を有している。
- ・札幌市の国際会議開催件数は順調に増加しており、北海道大学や札幌医科大学を始めとする市内の大学研究機関に、学術系の国際会議を開催するキーパーソンとなる人材が集積している。
- ・2015年に「札幌MICE総合戦略」を策定し、重点誘致ターゲットの一つとして政府系国際会議を掲げている。また、昨年観光庁からグローバルMICE強化都市に選定されており、現在、MICE誘致力を強化している。
- ・札幌市では、大倉山ジャンプ競技場などの多彩な観光資源を活用したユニークベニューも提供しており、各省庁におかれては、札幌市での国際会議開催を御検討いただきたい。

以上

（速報のため、事後修正の可能性あります。）